

私立 千葉明德短期大学

取組名称 千葉から創る、地域と協働し、個別の就職力を高め支える就職支援

取組担当者 保育創造学科 准教授 副島 民恵

1. 本学の概要

千葉明德短期大学は、1970(昭和45)年に幼児教育者の養成を目的として、学校法人千葉明德学園によって幼児教育科単科の短期大学として開設された。2004(平成16)年4月には創立35周年を機に、新しい構想のもと幼児教育科を保育創造学科と改め、現在245名の学生が学んでいる(2010(平成22)年5月1日現在)。

本学園においては1925(大正14)年に千葉淑徳高等女学校(現千葉明德高等学校)を開設した他、1967(昭和42)年に千葉明德学園幼稚園(現千葉明德短期大学附属幼稚園)を、2003(平成15)年には明德本八幡駅保育園を、2010(平成22)年には明德浜野駅保育園を開設した。また、2006(平成18)年には姉妹法人である社会福祉法人千葉明德会立の明德土気保育園も創立した。幼稚園、保育所を併設するに加え、短期大学内で1998(平成10)年から子育て支援事業「ほっとステーション親子」を展開するなど、保育を学ぶに恵まれた環境にある。

現在、学校法人及びその開設するすべての学校、施設の名称に「明德」が冠されているが、この「明德」という言葉は、中国の古典「大学」の「大学之道、在明明徳、在新民、在止於至善」に由来する。「明德」に込められた本学の建学の理念とは、実利の学としての小学に止まらず、自らの徳性を輝かせるべく大学の道を求め、社会に貢献していく有為の人材を育成することであり、「明德を天下に明らかにせんとする者は、先ず其れの知を致せ」に基づき、本学は、学芸を教授し、自己の涵養を促し、社会に貢献する英明を育て、乳幼児並びに児童の教育・保育に資する人材養成をすることを教育目的としている。

2. 本取組の概要

本取組では、昨今の厳しい新卒学生の就職状況の中、社会人・職業人としての自立意識の立ち遅れた学生達を本学スタッフが一丸となって支援し、全ての学生が

授業や実習、学生生活等で身につけた専門性と人間性を前提に希望する進路に就くことを達成目標とする。

学生自身の志望に合った求人情報を見逃すことなく、また就職採用試験への不安から応募を見送ることなく、適切なタイミングで就職採用試験にチャレンジをする「求人对応力」と、就職採用試験に勝ち抜く力をつける「就職試験対応力」の獲得を支援するために、学生の就職相談・指導を充実させる。

それとともに、求人環境を向上させるため、千葉県内の幼児教育・保育・社会福祉施設等や団体と密接な連携を展開する。

具体的には、本学における就労・進学委員会の増員・拡充により、以下の6点についての取組を行い、全ての学生が希望の進路に就ける支援を行う。

- ・対応時間の延長も含む支援態勢の強化・充実
- ・個別ニーズに応じた求人と丁寧に関与就職支援
- ・就職活動マナー指導等の窓口相談
- ・公務員試験対策を含む保育所・幼稚園等の就職試験対策支援プログラム再構築及び試験対策支援(相談・指導)の拡充
- ・保育施設・関連団体等との連携体制の整備と年間を通じての具体的な展開
- ・保育現場の人材と協働する就職ガイダンスや就職相談の場作り

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

幼児教育者・保育者の雇用市場は、保育所入所待機児童による保育施設等の増設に伴う人材供給等による、人材不足を背景に、比較的有効求人倍率は高い。しかし、それに伴う教員、保育士養成校の増加や、採用側は経験者を求めるといった人材の需給バランス等から、就職採用試験に合格し内定を取得することは困難化の傾向があり、内定時期も遅れ気味である。

そのような環境の中で、学生が希望する進路に就くためには、早い段階で就労に向けた意識を醸成し、自身の就労候補先や条件を具体的に絞り込んでおくこと

が望まれる。また、近年の学生は、社会人・職業人としての自立意識の立ち遅れと、自分に対する自信の欠如により、就労候補先となりうる求人に対して、躊躇し迅速に対応できない傾向が強まっている。加えて、1年次に学んだ専門教科の知識を系統立てて整理できていないため、専門知識に関する筆記試験や面接試験における受け応えに対する自信と対策が不十分であると思われる。

このような状況を改善するため、求人環境を向上させ、学生の就職活動に立ち向かう自信と実力を向上させる以下対応の必要性がある。

- ・学生の描いた就労像を具体的な就職（希望する進路）へと繋げる就職支援機能の拡充
- ・学生の求人への迅速かつ適切な対応を可能とする就職指導・相談機能の充実
- ・学生が就職採用試験を勝ち抜く対応力をつける就職支援プログラムの再編・拡充
- ・幼児教育・保育・社会福祉施設等の就職候補先情報収集や交流等、保育現場との関係強化による就職候補先の確保・拡充

本取組では、このような背景の下、学生個々のニーズにあった求人の就職採用試験に立ち向かう自信（求人対応力）と、就職採用試験を勝ち抜く実力（試験対応力）の獲得に対するきめ細かい支援を図り、それと同時に、求人環境の向上のため千葉県内の幼児教育・保育・社会福祉施設等や関係諸団体と緊密な連携を図る。これにより、全ての学生が希望する進路に就くことができるように導く就職支援に資する態勢と環境の整備を行う。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 充実した進路ガイダンスの実施

全スタッフ動員の下、1年生を対象に、近年の新卒者における求人市場等の就職状況全般、及び短期大学卒業生の就職活動の概要について理解をする進路ガイダンス（就活入門）を行う。それを踏まえた上で、2年生において、本学、特に保育関連分野における求人や就職の状況を理解でき、学生が「いつ」就職活動を開始し、「どのように」進めるべきかを理解することができる進路ガイダンスⅠを実施する。それに加えて進路ガイダンスⅠで就職登録、就職マナー講座Ⅱにおいて自己分析を行い、学生自身が自ら自身の向かうべき進路について再確認することを促し、具体的な進路候補案について検討を重ねる機会とする。

学生は進路ガイダンスを踏まえて就職登録に向き合うことにより、改めて自身の希望する進路について再考し、就労や就職候補先を意識して就職採用試験に臨む心構えが整い、就職活動により積極的な姿勢で向き合えるようになることが期待される。また、全スタッフを動員して進路ガイダンスを行うことで、全スタッフが就職活動に取り組む個々の学生の様子を観察し、学生それぞれの就職活動の進捗状況の把握をすることが可能となる。更には、学生個々に合ったきめ細かい就職活動のアドバイスをするための学生との関係作りの基盤を築く足がかりとする機会とすることができる。

それに加え、学生が職種別の具体的な就職活動時期や活動のあり方を実践的に把握でき、また職種別に適した就職活動支援が可能となるよう、新たに希望職種別の進路ガイダンスⅡ、Ⅳ、Ⅴをそれぞれの職種にあった時期・内容で実施する。これにより、進路ガイダンスが同じ志向の学生同士が抱える問題や不安を共有し合い克服し合える場となることも期待される。

また、本学の就職相談や連携強化を担当する現有スタッフは学科専門分野となる保育関連分野への就職活動に対応することに重きをおいて布陣されていることから、対応が不十分になるであろうと思われる一般企業等の希望者に対する進路ガイダンスについては一部を外部委託し、充実した情報提供及び支援を実施する。

表1 本学の進路ガイダンス及び就職マナー講座予定

日程	内容		
9月	進路ガイダンス (就活入門)	1年生全員	現在の新卒者の就職状況。一般企業就職の就職活動概要進路について
4月	進路ガイダンスⅠ	2年生全員	就職支援プログラムの概要・進学について・本学の就職状況・就職登録進路について
4月	進路ガイダンスⅡ	企業就職希望者	応募書類の準備・学内求人の閲覧の方法・就職サイトの活用について
4月	就職マナー講座Ⅰ	企業就職希望者	就職活動のマナー
7月	就職マナー講座Ⅱ	就職登録者	履歴書、応募書類の準備～自己分析～
7月	進路ガイダンスⅢ	就職登録者	夏休みの過ごし方
9月	就職マナー講座Ⅲ	保育系就職希望者	身だしなみ・メイク編
9月	進路ガイダンスⅣ	保育系就職希望者	保育系就職志望者向け～採用側の視点を知る～
9月	就職マナー講座Ⅳ	保育系就職希望者	面接編1
9月	就職マナー講座Ⅴ	保育系就職希望者	面接編2
10月	進路ガイダンスⅤ	保育系就職希望者	保育系就職志望者向け～就職活動の進め方～

(2) 就職相談カウンターでの学生個々のニーズに対応できる丁寧な就職相談の実施

相談待ち時間の短縮や、個々の学生が満足できるきめの細かいアドバイス等就職相談機能を向上させるため、就職相談態勢の拡充に合わせて相談カウンターを増設し就職相談に対応する。特に、就職採用試験が多く実施され、試験準備に当たり多くの学生の支援が必要となる後期からは、就職相談カウンターの対応時間を従来よりも延長し、8時30分から19時までとする。

相談員体制の強化及び相談カウンターの拡充に伴い、学生から不満があった相談待ち時間が短縮され、これまでよりも多くの学生へのタイムリーな相談対応が可能となる。さらに、就職相談窓口の対応時間の延長により、授業終了後等学生にとってより都合の良い時間に就職相談ができる環境となる。同時に、個々の学生が満足できる進路相談や履歴書添削、活動マナーの指導、求人紹介等、よりきめの細かい丁寧なアドバイスが可能となる。

(3) 保育現場で働く卒業生との交流会の実施

学生が卒業生から、直接、職場環境に関する情報を得、就職してから役立つスキル等についてアドバイスを受ける場を設ける。これにより、学生の就職に対する膨らみすぎた不安や迷いが取り除かれ、自身の就労像を再度描きなおす機会とすることができる。また、卒業生から就職に関するアドバイスや就職採用試験に勝ち抜くためのヒント・対策等についても直接話を聞くことができ、主体的に就職活動に取り組もうとする意欲が醸成できる機会とすることが期待される。

これらにより就職活動や職場環境に対する漠然とした不安を抱き準備不足を理由にチャンスを逃すことなく、ニーズにあった求人情報に対応できるようにする。

(4) 就職関連情報管理・公開システムの改善

求人確認・閲覧・関連情報の確認がスムーズにできるように、職種・地域ごとの検索が可能な求人揭示環境の改善を行うとともに、PCによる就職情報データベース検索環境の整備を行うなど、就職関連情報管理・公開システムの改善を図る。また、これまで翌日公開であった求人票の公開を迅速化し、即日公開とする。

これにより、学生自らが、自身の求職ニーズにマッチした求人情報を的確に認知・検索・閲覧することができ、就職先情報や過去の試験情報等関連する就職情報についてもわかりやすく確認できるようになる。ま

た、即日求人公開により、最新の求人情報をタイムリーに得ることができるようになり、学生は新しい情報に対し速やかに行動が起こせるようになり、就職に対する心の準備や受験準備の迅速化が図られ、求人対応力が向上できる。

(5) 就職採用試験対策プログラムの実施

就職試験対策の支援の充実を図るため、これまで就職ガイダンスの一部として行われてきた就職活動マナー講座や主に公務員試験対策として実施してきた教養基礎講座を、新たに就職採用試験対策プログラムとして、大きく以下の3つのメニューに拡充・再編し、実施する。

・「就職活動マナー」

志望動機・自己PR等を踏まえた履歴書の書き方、面接での応対を含む就職活動の常識やマナーの丁寧な指導、小グループでの面接指導により就職基礎力を高めることが期待でき、就職採用試験を勝ち抜き、内定を獲得できる力を醸成する。

・「一般教養講座」

近年私立の保育関連求人先においても実施されることが多くなった一般教養試験についての講座を40名程度のクラスで実施し、各人の力量に応じた丁寧な支援体制とする。

・「専門教養講座」

これまで得た保育に関する専門知識を系統立てて整理し、就職試験に勝ち抜く力を身に付けるため、実際の就職採用試験に当たっての直前対策用教材としての活用も意識して作成された本学独自の教養基礎教材をテキストとし、少人数クラスによる講座を実施する。

これらの講座を活用することにより、学生の就職採用試験における筆記試験・面接試験での試験対応力が向上され、就職採用試験を勝ち抜き内定を獲得できる可能性を高める。

(6) 連携強化担当等による千葉県内の幼児教育・保育所・社会福祉施設等への訪問

幼児教育・保育・社会福祉施設等の保育現場を様々な機会を利用して訪問し、これまでより細やかな交流・情報交換を通じて関係強化を図る。この活動を通じ、本学に関する先方の理解を深めると同時に、それぞれの保育現場（幼児教育・保育・社会福祉施設等）の特色をより深く把握し、相互理解を深める機会とするばかりでなく、一步踏み込んで求人動向や保育現場で必要とする人材についての情報を収集し、相手の顔

が見える関係の構築を図る。これにより、求人情報の早期把握・求人開拓が望め、学生の就職採用試験受験の機会が増大し、学生の個性や要望にあった求人先の紹介が可能となる。

また、学生の就職先のミスマッチによる早期退職の予防へもつながることが期待される。

(7) 千葉県内の幼児教育・保育・社会福祉施設や団体等を学校に招いての交流会の実施

千葉県内の保育現場の採用担当者等を学校に招き、学生と直接交流する場を設ける。交流を通して、採用担当者に本学の学生の姿を知ってもらうと同時に、学生たちが保育関連分野の採用に関する生の情報に触れることができ、就職活動の一步を踏み出すための場とする。本学に保育現場の採用担当者等を招くことで双方の相互理解が深まり、相手の顔が見える関係に向けて、関係の強化を促進する。特に、学生と採用担当者等が直接交流することを通じて、保育現場の採用担当者等にとっては、本学及び本学学生に対する理解が深まると同時に、地域人材の求人・採用に向けた事前活動として人材発掘の機会となり、このような関係を通じて、将来的には本学とともに地域保育を支える人材を育成する協働関係に発展を目指す。

また併せて、採用担当者等に講師を依頼し、就労の意味や心構えについての講座を設け、学生が卒業後の就労像を再確認し就労に向かう不安を取り除くと同時に就職先で求められる人材について考える機会とする。

学生にとっては、採用担当者等との直接交流の機会を通じて、就職候補先をよく知り、さらに見学・訪問するきっかけともなり、求人对応に先立つ積極的な就職活動に取り組む機会となり、その後の対応次第によっては指名求人へにつながる可能性も期待される。

これらにより、求人環境の改善につながることが期待され、併せて、学生にとっては、講座や交流を通して自身の就労像を再確認することにより、就労に向かう不安が取り除かれ、主体的に就職活動と向き合い、求人对応力が向上することも期待できる。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組の進捗状況は、就労・進学委員会により定期的に確認をする。

本取組に関する評価は、アンケート等により学生評価や保護者会等での保護者意見の聴取を行う。また、千葉県内の幼児教育・保育・社会福祉施設の関係者を

含む外部評価委員会による外部評価を行う。これらの評価内容及び達成状況を踏まえ、総括・評価を行う。

当事者や第三者の意見や達成状況の客観的評価により、現状抱える問題点を全体的な視野から確認・整理、総括して、改善の方向性を整理して、明示することで、より効果的な次年度のプランの策定につなげる。

6. 本取組の実施計画等

(1) 本取組の展開の準備

2月～／就職相談員募集・採用活動及び採用。

2月～／保育現場との関係強化プランの策定と連携強化担当の募集・採用活動。

2月／「就職採用試験対策支援プログラム」の再編検討と担当講師手配。

3月／「就職採用試験対策支援プログラム」担当講師打ち合わせ会の開催及び専門教科関連の教養基礎教材作成。

3月／保育現場の人材と協働する就職ガイダンス・就職相談の場作りの次年度プラン策定と協力者手配開始。

3月／就職情報紹介・検索・閲覧環境の整備。

(2) 就職相談態勢の強化

4月～10月／進路ガイダンスの実施。

4月～3月／就職相談カウンターでの学生個々のニーズに対応できる丁寧な就職相談の実施。

9月／保育現場で働く卒業生との交流会の実施。

4月～6月／就職関連情報管理・公開システムの改善。

(3) 就職採用試験対策プログラムの再構築

4月～12月／就職採用試験対策プログラム（2年生向け）の実施。

10月～1月／就職採用試験対策プログラム（1年生向け）の実施。

(4) 千葉県内保育現場との関係強化(求人環境の向上)

4月～3月／連携強化担当等による千葉県内の幼児教育・保育所・社会福祉施設等への訪問。

9月・11月／千葉県内の幼児教育・保育・社会福祉施設や団体等を学校に招いての交流会の実施。

(5) その他(運営・評価等)

4月～3月／学生の進路志望・就職活動・求人動向・取組予定の確認と取組実施の振り返り・見直し。

1月～3月／外部評価・総括と次年度のプラン策定。